

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 公益財団法人 愛知県国際交流協会

1. 事業名称 多文化共生社会実現に向けた地域の日本語教育推進事業

2. 事業の目的

①地域の様々な主体が連携・共同して多文化共生社会に向けた『地域における日本語教育』を推進していく基盤をつくること ②日本語を指導しているボランティアがその活動の意義を認識し、効果的な教室活動が展開できるようになること ③市町村や国際交流協会の担当者が、地域の日本語教育の意義や役割を認識し、コーディネートできる意識とスキルを身につけること を目指し、そのためのきっかけの1つとして「行動・体験型」教室活動を学ぶ場をさまざまな形で展開する。

3. 事業内容の概要

【取組1】地域の日本語教育の拠点づくり

- ① リソースルーム祭の開催
- ② 日本語ボランティア理解講座の開催
- ③ 『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』の活用のためのマニュアル作成

【取組2】地域防災日本語教室の開催

【取組3】日本語シンポジウムにおける成果発信

【取組4】

- ① プログラム研修の開催
- ② 日本語教育コーディネーター研修の開催

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 5月27日 (火) 16:30~ 18:30	2時間	あいち 国際プラザ	尾崎 明人 神谷 輝 衣川 隆生 近藤 公彦 鈴木 勝代 松本 一子 栗木 梨衣 大竹 美樹 甲村 博美 吉岡 嗣晃	平成26年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業計画について	・マニュアルの位置づけ、趣旨等について ・地域防災日本語教室について ・プログラム研修について ・日本語教育コーディネーター研修について
2	平成26年 9月2日 (火) 10:00~ 12:00	2時間	あいち 国際プラザ	尾崎 明人 神谷 輝 衣川 隆生 近藤 公彦 鈴木 勝代 松本 一子 米勢 治子 栗木 梨衣 大竹 美樹 吉岡 嗣晃	(1)これまでの実施状況について (2)【取組1】マニュアル作成について (3)今後の取組予定について	・事業の実施状況報告 ・マニュアルの内容について
3	平成26年 12月5日 (金) 13:30~ 15:30	2時間	あいち 国際プラザ	尾崎 明人 神谷 輝 衣川 隆生 近藤 公彦 鈴木 勝代 松本 一子 米勢 治子 栗木 梨衣 大竹 美樹 甲村 博美 吉岡 嗣晃	・平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業報告について ・平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業計画について	・平成26年度事業の実施状況報告およびふりかえり ・平成26年度のふりかえりを踏まえた平成27年度事業計画およびその実施方法・内容等について

5. 取組についての報告

○取組1:地域の日本語教育の拠点づくり

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
当協会が地域の日本語教育の拠点として設置している「日本語教育リソースルーム」を広く知ってもらうとともに、日本語教育関係者に『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』を紹介し、効果的な活用方法を提案・発信することにより、特に教室活動のあり方をふりかえり、見直すきっかけとする。
- (2) 取組内容
- ① リソースルーム祭(夏祭り・しゃべろまい会)の開催
 - ② 日本語ボランティア理解講座の開催
 - ③ 冊子『「使える」日本語を学ぶ!～行動・体験型の教室活動をつくろう～』の作成
- (3) 対象者
- ①③日本語教育に携わっている方・関心のある方 (③については、マニュアルの対象者)
 - ②日本語教育ボランティア未経験者・初心者
- (4) 参加者の総数 290人 ※編集委員は除く
出身・国籍別内訳
- | 中国 | 人 | インドネシア | 人 | ※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。 |
|------|---|--------|------|-----------------------------|
| 韓国 | 人 | タイ | 人 | |
| ブラジル | 人 | ペルー | 人 | |
| ベトナム | 人 | フィリピン | 人 | |
| ネパール | 人 | 日本 | 290人 | |
- (5) 開催時間数(回数)42時間 (全21回) ※マニュアル編集会議は除く
- (6) 取組の具体的内容

①リソースルーム夏祭り

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 7月28日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	17人	日本	初級「みんな の日本語」を 使って	日本語教室でよく使われている、テ キスト「みんなの日本語」の活用方 法を学ぶ。	久田 洋子 米勢 治子	酒井 美賀
2	平成26 年7月29 日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	26人	日本	初級「いっぽ にほんご・さ んぽ」を使っ て	最近よく使われている、テキスト 「いっぽにほんご・さんぽ」の活用 方法を学ぶ。	白石 真理 米勢 治子	酒井 美賀
3	平成26年 7月30日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	24人	日本	初級「大地」 を使って	比較的新しい教材「大地」の活用方 法を学ぶ。	五十嵐 高 子 米勢 治子	酒井 美賀
4	平成26年 7月31日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	19人	日本	中級	中級クラスを教えるにあたり、使える 教材について学ぶ。	仲村 佳子 米勢 治子	酒井 美賀
5	平成26年 8月1日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	14人	日本	かな・漢字	ひらがな・漢字の教え方に特化した 教え方のコツを学ぶ。	長谷川 宏 子 伊藤 典子	酒井 美賀
6	平成26年 8月2日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	14人	日本	子どものため の教材	子どもへの日本語教育指導にあた り使える教材について学ぶ。	松本 一子	大島 美枝

計 12時間 114人

リソースルーム祭 シャベロまい会

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 7月5日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	18人	日本	外国人が仕 事で求められる こと	日本の企業で働くにあたり、なにが 必要か、どれぐらいの日本語能力が 求められるのかについて学ぶ。	小川 千鶴	加藤 寿子 浜原 弘也
2	平成26年 7月19日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	15人	日本	超級 名古屋 弁	名古屋人でも知らない超級・名古屋 弁講座について学ぶ。	鈴木 勝代	金地 和代 稲垣 一雄
3	平成26年 9月6日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	12人	日本	海外で日本 語を教える喜 び	トルコで日本語教室を開いたときの 経験談から学ぶ。	安楽 博勲	堀 ゆき子 吉田 千寿子
4	平成26年 9月20日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	11人	日本	とっさにイラスト を描くコツ伝 授	日本語を教える際に使えるイラスト の描き方を学ぶ。	渡辺 富紀 子	浜原 弘也 茶谷 きよ子
5	平成26年 10月4日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	9人	日本	オラ！かんた んスペイン語 講座	知っていると役に立つスペイン語を 学ぶ。また、外国語を学ぶ難しさ についても知る。	白石 真理 金地 和代	酒井 美賀 鈴木 勝代
6	平成26年 10月18日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	9人	日本	親子教室に 来るお母さん たちの悩み	子育て中のお母さんが来られる教 室のボランティアから、実態を聞いて、 考える。	堀 ゆき子	武藤 由利子 小川 千鶴
7	平成26年 11月1日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	13人	日本	歌教材で日 本語のリズム &アクセント の導入	リズムをつかってアクセントや発音を 教える方法について学ぶ。	吉田 千寿 子	早川 泰司 金地 和代
8	平成26年 11月15日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	11人	日本	使える教材作 り	漢字カードや自己紹介クイズなど、 紙と鉛筆だけで簡単に使える教材 の作り方について学ぶ。	渡辺 富紀 子	西部 昭夫 金地 和代
9	平成26年 12月20日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	17人	日本	外国人が好 きな日本のア ニメの魅力と は	外国人に人気のアニメについて知る ことで、学習者との会話を弾ませる きっかけについて学ぶ。	甲村 博美	鈴木 勝代 伊藤 典子
10	平成27年 1月17日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	13人	日本	日本人と外国 人の感覚の 違い	日本人と外国人の感覚の違いにつ いてみんなで話し合い、さらにその背 景になにがあるのかも探る。	飯倉 和子 伊藤 千恵 美 小川 千鶴 奥津 愛子 杉山 明美	茶谷 きよ子 稲垣 一雄
11	平成27年 1月31日 13:30～ 15:30	2時間	あいち国際プラ ザ	23人	日本	授業で使える 100均グッズ と自慢の手作 り教材	教室活動を行う際に使える100均 グッズや、教材の作り方について学 ぶ。	酒井 美賀	西部 昭夫 早川 泰司

計 22時間 151人

②日本語ボランティア理解講座

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 11月10日 10:30～ 12:30	2時間	あいち国際プラ ザ	22人	日本	日本語ボラン ティアとは？	日本語ボランティアとは何か？から 心構えについて学ぶ。	鈴木 勝代	酒井 美賀
2	平成26年 11月17日 10:30～ 12:30	2時間	あいち国際プラ ザ	23人	日本	外国につながる 子どもたち	愛知県と全国の外国にルーツをもつ 子どもについて。また、指導をする 際の注意点について学んだ。	松本 一子	酒井 美賀

3	平成26年 12月1日 10:30～ 12:30	2時 間	あいち国際プラ ザ	20人	日本	教えることを 考える	ボランティア教室での授業観や、わ かりやすい教室のつくりかたについ て学んだ。	伊藤 典子	酒井 美賀
4	平成26年 12月8日 10:30～ 12:30	2時 間	あいち国際プラ ザ	19人	日本	ふり返りと今 後に向けて	これまでのふり返り。わかったこと、 わからなかったことを共有した後、今 後のアクションプランを考えた。	米勢 治子	酒井 美賀

計 8時間 受講者数:25人

④マニュアルの作成

- 規格: A4両面カラー 88ページ(本文)
- 印刷部数: 1,500部
- 編集委員: 6名

安藤よし子	東海日本語ネットワーク／NPOシェイクハズ
岡部真理子	東海日本語ネットワーク／ほしがおか日本語教室
酒井美賀	東海日本語ネットワーク／ことばの会・NIC日本語の会
白石真理	東海日本語ネットワーク／ほしがおか日本語教室
鈴木勝代	東海日本語ネットワーク／ことばの会
米勢治子	東海日本語ネットワーク

- 配布先: 地域の日本語教室、市町村、市町村国際交流協会 等

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	議題	内容	出席者	事務局
1	平成26年 6月28日 13:30～ 15:30	2時 間	あいち国際プラ ザ	8	日本	マニュアル作 成の 趣旨・構成等 につ いて	○マニュアル作成の趣旨・ねらいにつ いて ○マニュアルの構成について ○会議日程について ○作成部数および配布先について ○執筆内容のイメージ／プログラム 研修について	安藤 よし子 岡部 真理 子 酒井 美賀 白石 真理 鈴木 勝代 米勢 治子	栗木 梨衣 吉岡 嗣晃
2	平成26年 7月15日 13:30～ 16:30	3時 間	あいち国際プラ ザ	8	日本	原稿内容に 盛り込む 項目について	○0章「外国人の状況と日本語教 室」について ○第1章「活動の作り方」について ○第2章の執筆モデルについて	安藤 よし子 岡部真理子 酒井 美賀 白石 真理 鈴木 勝代 米勢 治子	甲村 博美 吉岡 嗣晃
3	平成26年 8月26日 14:00～ 18:00	4時 間	あいち国際プラ ザ	9	日本	マニュアル原 稿詳細につ いて	○マニュアル全体の表記方法につ いて ○0章「外国人の状況と日本語教 室」について ○第1章「活動の作り方」について ○第2章の執筆モデルについて	安藤 よし子 岡部真理子 酒井 美賀 白石 真理 鈴木 勝代 米勢 治子	栗木 梨衣 甲村 博美 吉岡 嗣晃
4	平成26年 10月7日 13:30～ 16:30	3時 間	あいち国際プラ ザ	8	日本	マニュアル原 稿内容につ いて	○第0章「愛知県の外国人」につい て ○第2章について ○第3章について ○第4章について	安藤 よし子 岡部 真理 子 酒井 美賀 白石 真理 鈴木 勝代 米勢 治子	栗木 梨衣 甲村 博美
5	平成26年 11月1日 13:30～ 17:00	3時 間 30分	あいち国際プラ ザ	8	日本	マニュアル第 2章の原稿に ついて	○第2章の執筆分担・内容について の検討 ○第0章・第3章・第4章について	安藤 よし子 岡部 真理 子 酒井 美賀 白石 真理 鈴木 勝代 米勢 治子	栗木 梨衣 甲村 博美
6	平成26年 12月16日 10:30～ 18:00	7時 間 30分	あいち国際プラ ザ	8	日本	マニュアル第 2章の原稿に ついて	○第0章・2章 原稿チェック ○第3章・4章 執筆内容について の細かい検討	安藤 よし子 岡部 真理 子 酒井 美賀 白石 真理 鈴木 勝代 米勢 治子	栗木 梨衣 甲村 博美

7	平成26年 12月26日 9:30～ 13:00	3時 間 30分	あいち国際プラ ザ	8	日本	マニュアル第 3章・第4章に ついて	○第3章 原稿チェック ○第4章「座談会」の原稿について	安藤 よし子 岡部 真理 子 酒井 美賀 白石 真理 鈴木 勝代 米勢 治子	栗木 梨衣 甲村 博美
8	平成27年 1月5日 13:00～ 17:30	4時 間 30分	あいち国際プラ ザ	8	日本	マニュアル原 稿に ついて これまでの議 論を 踏まえた最終 確認	○第0章～第5章の主な変更箇所 について ○第2章～第5章の原稿について気 づいたことなど	安藤 よし子 岡部 真理 子 酒井 美賀 白石 真理 鈴木 勝代 米勢 治子	栗木 梨衣 甲村 博美
9	平成27年 1月20日 13:00～ 17:30	4時 間 30分	あいち国際プラ ザ	8	日本	マニュアル原 稿 最終チェック	第0章～第5章 最終確認	安藤 よし子 岡部 真理 子 酒井 美賀 白石 真理 鈴木 勝代 米勢 治子	栗木 梨衣 甲村 博美
10	平成27年 1月20日 13:00～ 17:30	4時 間 30分	あいち国際プラ ザ	7	日本	マニュアル原 稿 最終チェック	第0章～第5章 最終確認	安藤 よし子 岡部 真理 子 酒井 美賀 白石 真理 鈴木 勝代	栗木 梨衣 甲村 博美

(7) 参加者の募集方法

①リソールーム夏祭り・しゃべろまい会 ②日本語ボランティア理解講座

：チラシを作成し、東海日本語ネットワークを通して配布したほか、当協会の機関紙とともに、市町村、市町村国際交流協会、日本語教室、県内大学、県内図書館、生涯学習センター等に送付

③編集委員の選定については、再委託団体に依頼し、日本語教育の経験が豊富な方、文化庁の「標準的なカリキュラム案について」を理解している方、取組4のプログラム研修に参加できる方にお願いした。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

(1)しゃべろまい会 第11回(2015.1.31) 参加者:23名 テーマ:授業で使える100均グッズと自慢の手作り教材

・ことばをわかりやすく伝えるツールとして、絵カードを紹介

①市販の絵カード②手作り絵カード③使えるイラスト・写真

・100均グッズで揃える日本語ボランティア7つ道具を紹介

①ホワイトボード ②お金 ③マーカー ④時計 ⑤●×サイン ⑥食べ物消しゴム ⑦地図 あいうえお表

・まとめ

①教材を用意する時間を短縮する ②市販のものをうまく使う→アレンジして使う

③「私の一押し」を見つける ④情報に敏感になる

⑤研修会を利用する

(2)日本語ボランティア理解講座 第1回(2014.11.10) 参加者:22名 テーマ:日本語ボランティアとは？

・日本語ボランティアは何をするか？

①日本語の文字や発音を教える

②日本の文化を知ってもらう

③相談にのったり、専門窓口へつなげる

・学習者について

①様々な国から来ている。愛知県はブラジル人、中国人、韓国人、フィリピン人の順に多い。

②生活に必要な日本語が話せることが大事。

(3)マニュアルの作成 第5回(2014.11.1) 参加者:8名 テーマ:0.2.3.4章の検討

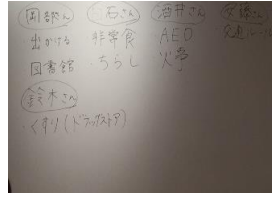
・第2章の執筆分担について

・第2章の原稿の検討

・第0章の資料の検討について

・第3.4章の内容について





(9) 取組の目標の達成状況・成果

①②いずれの講座も定員を超える参加があり、日本語教育ボランティアがスキルアップや情報収集にとっても熱心であることが伺えた。①では、同じ立場のボランティアが講師となって教室で工夫していることやコツなどを発表することにより、参加者が同じ目線で自分の教室をふりかえるきっかけになったことがとてもよかった。また、普段使っているテキストの多様な活用方法を紹介したり、一見日本語教育とは関係のなさそうなテーマも取り上げたことで、「日本語教室」を決まった形にとらわれず、様々なアプローチがあることに気づいてもらえたと思う。和気藹々とした雰囲気での講座だったので、お互いの悩みを話し合ったりすることもでき、ネットワークづくりの成果もあった。②では、特に初心者を対象に、地域の日本語教育をとりまく背景やそもそも「地域の日本語教室」とは何を目指しているのかを考える講座を行ったが、初心者だけではなく、経験豊かなボランティアのとっても、教室活動をふりかえるよい機会となった。③では、文化庁が作成した『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』を効果的に活用するための冊子を作成することができたことにより、多くのボランティアに「ボランティア教室」ならではの教室活動について考えてもらえたことが大きな成果であった。しかし、それ以上に、冊子をつくるために編集委員と事務局が何度も議論を重ね、地域の日本語教室のあり方を考えることができたのがとても有意義であった。

(10) 改善点について

1回目の試みとしてある程度以上の成果をあげたものの、参加者に偏りがあること、つまり、参加する人は何度も参加するが、参加しない人はまったく参加しないという状況の改善には到らなかった。また、市町村や市町村国際交流協会担当者の参加もほとんどなかった。今回は、当協会が運営する「リソースルーム」の活用につなげることも目指していたため、あいち国際プラザでの開催となったが、多くのボランティアに参加してもらうためには、各地域における開催も視野にいれ、リソースルームの活用とは切り離して考える必要があるかもしれない。また、「リソースルームの活用」については、インターネットがこれだけ普及し、日本語教育教材も豊富になった今、そもそも「地域の拠点」のあり方を見直す必要があると思う。冊子づくりについては、今後も続けていく予定であるが、作成するプロセスの中で、いろいろ考えたり学んだりすることが多かったので、作成したものを活用してもらうだけでなく、多くの方たちに作成そのものに関わっていただくことが大切だと感じた。

○取組2: 地域防災日本語教室の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』を活用したモデル授業を行い、それを市町村・市町村国際交流協会の担当者や日本語教育ボランティア等に見学してもらうことにより、カリキュラム案の活用方法を知ってもらうとともに、地域の日本語教室のあり方を考えてもらい、より有意義な教室活動の展開につなげることを目指す。

(2) 取組内容

【取組4】プログラム研修に参加した「あいち国際プラザ日本語教室(当協会運営)」のボランティアが作成した、防災をテーマにした「行動・体験型プログラム」を日本赤十字社と協働で実際に行い、それを、市町村・市町村国際交流協会の担当者や日本語教育ボランティアに見学してもらうとともに、一緒に体験してもらう。

(3) 対象者

○プラザ日本語教室学習者

○日本語教育ボランティア、県内市町村・市町村国際交流協会日本語教育担当者等

(4) 参加者の総数 52人

出身・国籍別内訳

中国	9人	インドネシア	1人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。 フランス 1人 台湾 1人
韓国	人	タイ	2人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	1人	フィリピン	2人	
ネパール	人	日本	35人	

(5) 開催時間数(回数) 3 時間 (全2回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 11月8日 10:30～ 12:00	1時間 30分	あいち国際プラザ	17	中国(9人)ベトナム(1人)インドネシア(1人)タイ(2人)フィリピン(2人)フランス(1人)台湾(1人)	防災について知る	地震についてのDVDをみて、その中で難しかったことばを共有したあと、地震のときの初期行動、防災チェックガイドの記入、自分の国の救急について紹介、災害伝言板の登録、避難所の確認などを行う。	田村利哉 南川真樹子 松崎洋子 高山孝子 西川美耶子	
2	平成26年 11月15日 10:30～ 12:00	1時間 30分	あいち国際プラザ	52	中国(9人)ベトナム(1人)インドネシア(1人)タイ(2人)フィリピン(2人)フランス(1人)台湾(1人)日本(35人)	避難所とは？	災害に関する語彙を確認するとともに、避難所での支援物資についての説明を聞き、便利なリュックとガウンを作ってみる。	新美 薫 (日本赤十字社ボランティア)	西保千佳 菅沼ゆかり 江川歩 山本稔子 草野由美子 秋田博子 新井佐織 長坂万紀子 田村利哉 南川真樹子 松崎洋子 高山孝子 西川美耶子

(7) 参加者の募集方法

市町村・市町村国際交流協会への案内の送付、日本語教室、プログラム研修受講生等への案内、東海日本語ネットワーク会員への案内、当協会のウェブサイトへの掲載、メルマガの配信等

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

第2回 11月15日「避難所とは？」講師：日本赤十字ボランティア 新美薫氏

1. 「地震」「火事」「津波」「台風」など災害に関する語彙を確認しました。
2. 避難所で配給される物資について説明を聞きました。
配給されるものを手で持つのはとても難しいことを体験しました。
3. 風呂敷2枚を使ってリュックを作ってみました。
これがあれば、配給されるものを入れることもできます。
4. 寒い冬の避難所での生活について考えてみました。
5. 毛布を使ってガウンを作りました。
毛布は避難所で支給されるので、寒いときは便利です。
6. わからないこと、不安なことをグループで話し合い、全員で共有しました。
学習者からは、「避難所で外国人を差別しないでほしい」「外国人は避難所では心細いです」「水が止まってもトイレは使えますか？」などの発言がありました。



- (9) 取組の目標の達成状況・成果
地域の日本語教育以外のボランティアとうまく連携をとることができ、体験を交えた教室活動だったので、学習者もボランティアの楽しんで参加していた。ボランティアには、地域のリソースとつながることのよさを体感していただけたと思う。また、学習者にとっても普段接しているボランティアとは異なる日本人と接することができ、新鮮な気持ちで知らず知らず、日本語を学んでいたようである。市町村・市町村国際交流協会の担当者には、2日目に見学に来ていただいたが、学習者と一緒に活動に入っていたくとともに、終了後、このモデル授業の趣旨、文化庁の標準的なカリキュラム案の紹介、行動・体験型の教室活動とはどういうものか…などについてお話しした。早速自分たちの地域の日本語教室でも取り入れてみたいという声があがるなど、参加していただいた担当者には、今回目指していることを伝えることができた。
- (10) 改善点について
今回は、初めて試みたモデル授業だったので、当協会職員がマネジメントしての実施であったが、今後は日本語教育ボランティアが主体的に企画し、実施できるような場を設定していきたいと思う。参加していただいた市町村・市町村国際交流協会担当者には、趣旨を伝えることができたが、いかに、日本語教育に関心の薄い担当者に参加していただくか、趣旨を伝えていくかが今後の課題である。また、防災というテーマはわかりやすく学習者の関心も高いので取り組みやすかったが、こうした地域のリソースと連携した行動・体験型の教室活動を、日常の活動の中にいかに取り入れていくのか、ボランティアと一緒に考えていきたい。

○取組3：日本語シンポジウムにおける成果発信

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
多くの人に、地域の拠点としてのリソースルームの存在や文化庁作成の「標準的なカリキュラム案」の活用について知ってもらうとともに、地域の日本語教室の意義、あり方などを改めて認識してもらうとともに、普段の教室活動をふりかえり、より効果的な活動を目指すとともに、コーディネーター的役割を果たせる人材を増やしていく。
- (2) 取組内容
この地域で毎年1回実施されている、日本語シンポジウムにおいて、【取組4】プログラム研修で作成、実施した「行動・体験型活動」について発表する。
- (3) 対象者
日本語教育に携わる方
- (4) 参加者の総数 229人
出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	229人	

- (5) 開催時間数(回数) 1時間30分 (発表時間) (全1回)

- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 〇月〇日 16:00~ 18:00	2時間	〇〇公民館	6人	中国(3人), ブラジル(3人)	自己紹介	初対面のあいさつ方法を教える。次に名前札を作成し、あいさつや簡単な自己紹介の方法を教え、実践する。	文化太郎(講師)	文部花子, 国語二郎
1	平成26年 12月6日 12:30~ 14:00	1時間 30分	名古屋国際センター ホール	229人	日本	文化庁プログラム研修実施報告	ポスターセッションにより、行動体験型の活動事例を紹介する。白石氏は「チラシを使って買い物しよう」、田村氏は「地域防災日本語教室」について発表した。	白石真理 田村利哉	

(7) 参加者の募集方法

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組4の研修に参加し、実践活動を行った教室のうちの2教室のポスターを展示し、日本語ボランティアシンポジウムのポスターセッションで発表した。

- ・シンポジウムの昼食交流タイムに、参加者が自由に見学できるポスターセッションを行った
- ・開催時間の1時間30分の間に30人以上が当ポスターを見学し、担当者へ質問した
- ・質問内容は、「学習者の反応はどうであったか」「衣料品店や、日本赤十字などの協力者への依頼はどのように行ったか」などであった。
- ・ポスター内容は、取組4プログラム研修に参加し、行動・体験型の教室活動を行った結果報告(以下のとおり。)

①チラシを使って買い物しよう

<内容>

- ・チラシをみて、チラシについて知っていることを話合う
- ・チラシをみて、ほしいものを3つ決めて発表する
- ・ロールプレイでわからないことを尋ねる練習をする
- ・実際に衣料品店に行く
- ・チラシについて店員の話の聞いたり、質問したりする

②防災(地震のとき安全に避難できるようにする

<内容>

- ・地震のDVDをみて、地震について理解する
- ・地震のときの初期行動として、机の下に隠れてみる
- ・防災チェックガイドに必要事項を記入する
- ・災害伝言板に自分の携帯電話等を使って登録してみる
- ・避難所マップを確認する
- ・日本赤十字社に来てもらい、避難所で役立つワークショップを行う



(9) 取組の目標の達成状況・成果

この地域の日本語教育関係者が多く集まるシンポジウムにおいて発表することができたので、「行動・体験型教室活動」のことを知らない方や関心のない方も含めて、テキストに頼らない活動について紹介することができた。また、「発表する」という場があり、人に伝えることで、発表者自身も自分の活動をふりかえり、整理することができた。

(10) 改善点について

多くの関係者が集まることで広く伝えることができた反面、時間も短く、じっくり詳しく伝えたり、参加者と意見交換するところまでは難しかった。この発表に加え、「行動・体験型」活動に特化した発表の場を設けてもよいと感じた。

○取組4: ①プログラム研修の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

地域の日本語教育に関わるボランティア等が、多文化共生の視点をもって、テキストを使った従来型の活動だけでなく、地域のリソースを巻き込んだ教室活動を展開できるようになることを目指す。

(2) 取組内容

日本語教育ボランティアを対象に、文化庁「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」を活用しながら、多文化共生社会の視点を持った日本語教育のあり方を学ぶ講座を実施する。また、学んだことを受講生所属の教室で実践し、相互にその様子を見学したり、その成果を持ち寄って共有する。

(3) 対象者
日本語教室で活動しているボランティア

(4) 参加者の総数 26 人
出身・国籍別内訳 (日本 26人)

(5) 開催時間数(回数) 12時間 (全 6 回) (+教室活動実践:63時間)
※ 実践モデル授業:63時間 (【取組2】「地域防災日本語教室含む」)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 6月28日 10:30～ 12:30	2時 間	あいち国際ブラ ザ	22人	日本(22人)	オリエンテー ション、標準 的なカリキュ ラム案とは？	文化庁の「生活者としての外国人」 に対する日本語教育の標準的なカリ キュラム案等について概要を知 り、その「考え方」と「行動・体験中心 の活動」とは何かを理解する。	米勢治子	鈴木勝代 酒井美賀
2	平成26年 7月5日 10:30～ 12:30	2時 間	あいち国際ブラ ザ	20人	日本(20人)	活動のつくり 方1: 学習者に役 立つ活動テ マとは？	「行動・体験型」の活動テーマの選 び方を確認し、テーマからどのような 手順を経て活動をつくるかについて 理解する。	米勢治子	鈴木勝代 酒井美賀 松本里美 安藤よし子
3	平成26年 7月12日 10:30～ 12:30	2時 間	あいち国際ブラ ザ	24人	日本(24人)	活動のつくり 方2: 活動案をつ くろう！	1つのテーマの活動をどの程度の時 間をかけて行うのかを考え、その具 体的な活動の流れと教材について 理解を深める。	米勢治子	鈴木勝代 酒井美賀 得永美穂 萩原栄子
4	平成26年 7月19日 10:30～ 12:30	2時 間	あいち国際ブラ ザ	22人	日本(22人)	活動のつくり 方3: 実践に向けて	それぞれの活動現場の条件などを 確認し、実践に向けた活動案を考え る。	米勢治子	鈴木勝代 酒井美賀
5	平成26年 9月13日 10:30～ 12:30	2時 間	あいち国際ブラ ザ	22人	日本(22人)	実践活動計 画を共有し よう	それぞれの活動現場に持ち帰り、宿 題として所属教室で実施可能な活 動計画を立ててくる。各自が持ち 寄った活動計画を共有・検討する。	米勢治子	鈴木勝代 酒井美賀
6	平成26年 11月1日 10:30～ 12:30	2時間	あいち国際ブラ	22人	日本(18人)	実践活動の ふりかえり	実施した教室活動を基に宿題でポ スターを作成し、実践活動を共有・ 検討し、よりよい活動を目指す。	米勢治子	鈴木勝代 酒井美賀

○実践モデル授業

	教 室 名	開催日	開催時間	時間	テーマ
1	ことばの会	10月22日	10:00-11:30	1時間30分	「AED講習会」
		10月29日	10:00-11:30	1時間30分	
		11月5日	10:00-11:30	1時間30分	
2	黒川日本語教室	10月23日	18:30-20:10	1時間40分	簡単な日本語で病状が言える
3	あいち日本語の会	10月6日	10:00-11:30	1時間30分	ドラッグストアで薬を買う
4	あいち国際プラザにほん語教室（火曜）	9月30日	13:30-15:00	1時間30分	買い物（薬店・ドラッグストアー）
5	ほしがおか日本語教室	9月30日	10:00-12:00	2時間0分	チラシを使って買い物しよう
		10月7日	10:00-10:30	0時間30分	
6	あいち国際プラザにほん語教室（金曜夜）	10月3日	19:00-20:30	1時間30分	買い物
		10月10日	19:00-20:30	1時間30分	
7	愛西市にほんごきょうしつ	10月5日	10:00-11:00	1時間0分	チラシを利用しよう
		10月19日	10:00-11:00	1時間0分	
		10月26日	10:00-11:00	1時間0分	
8	知多市日本語教室	8月9日	14:00-15:00	1時間0分	買い物をしよう
		8月12日	10:00-15:00	5時間0分	
		8月23日	14:00-16:00	2時間0分	
9	刈谷市国際交流協会日本語教室	9月25日	11:00-11:30	0時間30分	図書館を利用しよう
		10月2日	10:00-11:30	1時間30分	
		10月9日	11:00-11:30	0時間30分	
10	長久手市ウェルカムにほんご教室	10月4日	10:00-11:30	1時間30分	図書館を利用する
		10月11日	10:00-11:30	1時間30分	
		10月18日	10:00-11:30	1時間30分	
11	日本語で話そう！長久手クラス	10月23日	9:45-12:05	2時間20分	日本の家庭料理
		10月30日	9:45-11:30	1時間45分	
		11月6日	9:45-11:30	1時間45分	
12	シェイクハンズ	10月5日	10:00-15:00	4時間0分	交通ルールを学び、安心安全に暮らそう！
		10月12日	8:30-15:00	6時間30分	
		10月19日	10:00-12:00	2時間0分	
13	ほしがおか日本語教室	10月14日	10:00-11:40	1時間40分	非常食を食べてみよう
14	九番団地日本語教室アウラドキューバ	9月27日	19:00-20:10	1時間10分	防災
		10月4日	19:00-20:10	1時間10分	
15	東別院日本語教室	9月12日	15:00-16:00	1時間0分	防災 （火事・地震・台風）
		9月19日	14:00-16:00	2時間0分	
		10月17日	14:00-16:00	2時間0分	
16	あいち国際プラザにほん語教室（土曜午前）	11月8日	10:30-12:00	1時間30分	防災
		11月15日	10:30-12:00	1時間30分	
合計				63時間0分	

(7) 参加者の募集方法

- 受講者募集チラシ(別添)を、市町村、市町村の協会、県内大学、図書館、文化施設、生涯学習センター、県内高校などに配付
- 当協会のメールマガジンに受講者募集を掲載

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

第2回「活動のつくり方1:学習者に役立つ活動テーマとは?」<2014/7/5>

- 「行動・体験型」の活動テーマの選び方を確認した。
 - ・“生活を豊かにする”はテーマではない
 - ・行動“どんな事をするか”がテーマになる。
 - ・読む事を目的にするのは行動体験型のテーマにはならない。
- 第1回の宿題「テーマを考えてくる」を持ち寄り、それぞれが出したテーマを基にグループに分かれた。
 - ・挙げたテーマは以下の通り。
 - A 公共施設を利用する
 - B 防災=安全に避難する=
 - C 買い物をする
 - D 市販薬を購入し、使用する
 - E AED=助けを呼ぶ
- どこかの教室で実際に活動する事をイメージして、生活上の行為の事例を挙げ、教室活動の目標・ねらいを決めた。
 - ・活動の目標例:学習者が一人で図書館で本や必要な資料(DVD・CD・ビデオなど)を借りることができる。
 - ・行為の事例:①.窓口で図書カードの作り方を尋ねる、②.登録用紙に必要事項を記入する、③.館内の様子を見る、④.実際に借りたい本やDVD/CD/ビデオを借りて返却する
 - ・活動のねらい例:①.図書カードの作り方を理解する、②.図書カード作成に必要な事項を書くことができる、③.館内の部屋の利用法を知る、④.貸し出しの仕組みを理解する
- テーマからどのような手順を経て活動をつくるかについて、行動・体験型教室活動の実践経験者である特定非営利活動法人シェイクハンズ所属の松本里美氏と安藤よし子氏から事例を聞いて、検討した。
 - <事例1>日本のお弁当づくりとオリエンテーション
 - <事例2>防犯

第4回「活動のつくり方3:実践に向けて」<2014/7/19>

- 第3回に各グループごとに作成した活動案を共有した。
 - 1. 活動案を完成させ、全員が他の人に説明できるようグループ内で復習
 - 2. グループの半分はそのテーブルに残って説明をし、半分は他のグループのテーブルを回る
 - ・テーブルに残った人:他グループからの意見・質問・アドバイスなどを付箋にメモして貼っておく
 - ・テーブルを回る人:説明を聞き、意見・質問・アドバイスをする
- それぞれが実際に実践する時の問題点を洗い出し、解決策を話し合った。
 - ・問題点例:①教室の授業時間を減らせない、②防災カードの必要性をどう説明するか、③防災カード記入で、文字はどうするか
 - ・解決策例:①テキストを使う授業より大事な事を学ぶのだと理解してもらい、②自分で言えない緊急時の状況を説明する。(上級者が母語で説明する事もできる)、③文字ならローマ字でもよい。(周りで助け合って書く)
- 今回の研修の目的を確認した。
 - 1.『教える』から『一緒に行動する』考え方(どこで、誰に、何を、どうやって)
 - 2. 対話による交流を深めながら、学習者と一緒に行動する(使ってみることで身につく)
 - 3. そのための教室活動の仕掛けや工夫を考える(コミュニケーションを通した意味理解)
 - 4. 周りのボランティアにも行動・体験型を理解してもらえるようにする

【宿題】次回9/13までに各自の所属する教室で行う活動案を作成して提出する

第6回「実践活動のふりかえり」＜2014/11/1＞

○それぞれの受講者が所属する教室で行った「行動・体験型」の教室活動をポスターにして報告し合った。行動・体験型を取り入れることのメリットが確認できた一方で、所属教室で行うことの難しさが指摘された。他の教室を見学できたことも良かった、という感想があった。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

14教室から26名の日本語教育ボランティアが受講し、毎回20名以上が出席した。それぞれ、モデル授業を考え、実践も行ったが、まだまだ「行動・体験型」教室活動の意義や手法が理解できているとはいえない。むしろ、負担感を感じてしまったボランティアもいたようである。さらに、日常の教室活動の中で、「行動・体験型」活動を取り入れるのも難しそうである。それでも、今回参加したボランティアは、テキストによる従来型の教え方以外の活動方法もあるということに気づき、日ごろの活動を見直すきっかけになったと思う。

(10) 改善点について

今回、講義を最初に行いその後モデル授業を実施したが、講義の意味が実感として理解できなかったようである。そのため、次年度は、モデル授業を早い段階で体験した上、ふりかえりの時間を長くすることで、理解が深められるよう工夫したい。また、教室内で「行動・体験型」を共有することが難しく、モデル授業を実施することができなかった受講生もいたので、教室以外でもモデル授業が行える場を設定したい。さらに、今年度の受講生は、次年度も再度参加するようによびかけるとともに、教室内での理解者を増やすため、複数人数で参加することを働きかけるなど、研修に参加しやすく、「行動・体験型」を教室の中で取り入れやすくする環境を整えていきたいと思う。

○取組4:②地域日本語教育推進担当者のためのコーディネーター研修の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

市町村・市町村国際交流協会の担当者が、地域の日本語教育の意義を理解し、主体的に地域の日本語教育に関わるようになるとともに、国や県の施策に関する情報を把握することにより、コーディネーターとしての役割が果たせるようになることを目指す。

(2) 取組内容

市町村・市町村国際交流協会の日本語教育担当者や多文化共生担当者を対象に、コーディネーターとして認識しておいてほしいこと、持っていてほしいスキル等を学ぶ研修を県内2地域で実施する。

(3) 対象者

市町村・市町村国際交流協会担当者

(4) 参加者の総数 21 人

出身・国籍別内訳 (日本 21人)

(5) 開催時間数(回数) 10時間 (全 2 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 8月22日 10:30~ 16:30	5時間	あいち国際プラザ	12人	日本(12人)	地域日本語教育推進担当者のためのコーディネーター研修	・多文化共生社会に向けた地域における日本語教育推進のあり方について ・地域日本語コーディネーターの役割について ・各地域の事業実施状況と課題の共有 ・地域内の連携体制構築に向けて(事例を交えて紹介) ・課題解決に向けて	神谷輝 米勢治子 衣川隆生 青木径子	
2	平成26年 8月27日 10:30~ 16:30	5時間	豊橋市民センター	9人	日本(9人)	地域日本語教育推進担当者のためのコーディネーター研修	・多文化共生社会に向けた地域における日本語教育推進のあり方について ・地域日本語コーディネーターの役割について ・各地域の事業実施状況と課題の共有 ・地域内の連携体制構築に向けて(事例を交えて紹介) ・課題解決に向けて	神谷輝 米勢治子 衣川隆生	

(7) 参加者の募集方法

各市町村、各市町村国際交流協会へメールに開催通知を添付して通知

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

地域日本語教育推進担当者のためのコーディネーター研修

1. 講演「多文化共生社会に向けた地域における日本語教育推進のあり方」

愛知県が作った冊子「多文化共生社会に向けた地域における日本語教育推進のあり方」を用いて、多文化共生推進室の担当者より講義をした。県が「多文化共生社会による豊かで活力ある地域づくり」を目標にしており、今後日本語教育を推進していく上でどのような体制作りをしていくかを、この「あり方」に記載し進めている。

2. 講演「地域日本語コーディネーターの役割」

地域日本語教育の対象は住民全体…外国人だけでなく、地域に住む日本人も対象となる。地域の外国人の状況や彼らの抱える課題という所から日本語教室はスタートするべきである。

3. ワークショップ「各地域の事業実施状況と課題の共有」

○各地域の日本語教室の課題の絞り込みと共有(テーブルごとに自己紹介)

○自分の地域の課題を出し合い、お互いにアドバイスし合う

○受講者から課題として出たもの

・教室に永住者・定住者資格を持っている人が来ない・日本語学習が必要な方を十分カバーしていない

・地域ニーズが地域機関に届いていない・子ども向け日本語教室の必要性が周知されていない

・モンスターボランティアが、他のボランティアのやる気をそいでいる など

4. 地域内の連携体制構築に向けてー豊田市の事例ー

○外国人の方に向けた語学学習支援の体制づくりを行う上で、日本語教育や日本語教室の方だけでは一生懸命頑張っても体制づくりはできない。行政の方の力、根回しによって他の部署の方を動かす事が重要になる。

○キーパーソンとしてシステムコーディネーター(意見・希望を聞き、ニーズに合う教室を立案・実施・全ての業務を行うのではなく調整をする人材)がある

○豊田市の事業として連携して進めることで作ることの出来た教育用DVD教材を流し、実際の地域医療センターや119番通報などを取り上げ、テーマを設定すること・システムコーディネーターや自治体の協力の大切さを解説

○地域日本語教育推進担当者としての仕事の進め方について解説

5. ワークショップ「課題解決に向けて」

○実際に参加者が抱えている課題をグループでひとつ取り上げ、課題を解決する事業を提案する

(例)課題(現状):日本語教室の若手ボランティア、新規ボランティアが定着しない

目標(状態):新規ボランティアが定着する

原因:会の運営について話し合いがない

事業名:日本語教室運営協議会を設立

事業内容:日本語教室の理念の共有、協議会の定期開催、教室の見直し、課題の洗い出し

事業説明の対象となる人:既存のボランティア・団体の方を説得(新規受け入れを嫌がるかも)

6. ふりかえり

全体を通しての感想・納得できたこと・疑問に思ったことを共有して終了



(9) 取組の目標の達成状況・成果

市町村や市町村国際交流協会の担当者の多くは、自分たちが日本語教育コーディネーターであるという認識をあまり持っていないが、多文化共生社会を実現するために、地域の日本語教室が大きな役割を果たしていること、その役割をより効果的に果たしていくためにはコーディネーターの存在が大切であること、市町村や市町村国際交流協会の担当者もコーディネーターの1人であることを伝えることができた。また、愛知県が、「オール愛知」で地域の日本語教育を進めようと考えていることも共有することができ、今後、市町村・市町村国際交流協会と協働していく上で、とても意味があったと思う。さらに、地域が抱えている課題をとりあげて、解決策を探るワークショップを行ったり、先進事例を紹介したことで、現場に役立つヒントを得ることができたと同時に、受講者同士で情報交換もでき、今後にかされる研修となった。

(10) 改善点について

より多くの担当者に参加してもらうため、開催時期や開催地域の工夫が必要であると思う。また、市町村・市町村国際交流協会の担当者だけでなく、各教室のコーディネーター的役割を果たしているボランティアにも参加してもらうことで、より教室活動につなげることができると思う。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

①地域の様々な主体が連携・共同して多文化共生社会に向けた『地域における日本語教育』を推進していく基盤をつくること

②日本語を指導しているボランティアがその活動の意義を認識し、効果的な教室活動が展開できるようになること

③市町村や国際交流協会の担当者が、地域の日本語教育の意義や役割を認識し、コーディネートできる意識とスキルを身につけることを目指し、そのためのきっかけの1つとして「行動・体験型」教室活動を学ぶ場をさまざまな形で展開する。

(2) 事業目的の達成状況

市町村・市町村国際交流協会担当者、日本語教育ボランティアなど多くの関係者に「行動・体験型」教室活動を伝えることができた。まだまだ、正しく理解できていなかったり、わかっているけど実践できなかったりしている教室も多いが、テキスト重視の教え方以外の活動もあるということは理解してもらえたと思う。参加者のアンケート等でも、新しい手法に興味を持ってもらえたことが伺える。また、今回、東海日本語ネットワークと協働したことで、地域の日本語教室の実情をより正しく把握できたとともに、広報面でも効果があつた。さらに、日本赤十字ボランティアなど他分野で活動しているボランティア等との協働により、地域ぐるみで活動することの効果が実感できた。

(3) 地域における事業の効果、成果

「地域の日本語教室」の意義を市町村・市町村国際交流協会担当者やボランティア自身が認識しておらず、多文化共生社会の視点をもった教室活動があまりできていないことが課題であったが、少なくとも、現在の活動を見直すきっかけにはなったと思う。取組1においては、学習者が楽しく日本語教室に参加するボランティアならではのヒントがたくさん伝えられたし、「行動・体験型」をよりわかりやすく伝える冊子を作ることができ、そのプロセスにおいて関係者がより深く地域の日本語教室について考えることができた。取組4では市町村・市町村国際交流協会担当者に多文化共生の地域づくりの視点をもったコーディネーターの重要性を考えてもらうことができたとともに、ボランティアには「行動・体験型」教室活動の具体的な手法を体験してもらうことができた。事業全体を通して、日本語教室の現状を見直し、より効果的な活動を考えるきっかけになった。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

すべての取組において、参加者が限定されているのが大きな課題である。参加している方たちは、比較的熱心で、スキルアップや現状の見直しなどの意識の高い方たちが多いが、日本語教室の意義を認識しないまま、ともすればマンネリ化した教室活動を展開している人にはなかなか参加してもらえないのが現状である。また、今回「行動・体験型」教室活動をキーワードとして講座等を展開したが、単なる体験学習と受け止めてしまったボランティアも少なくなく、もう少し時間をかけてその意義を伝えていく必要があると思われる。

ii 今後の課題

所属教室で「行動・体験型」教室活動を実践するためには、教室内で「行動・体験型」教室活動の理解が必要である。今回の研修の参加者のように意識の高い方ばかりではなく、マンネリ化した教室活動を展開している人にも、「行動・体験型」教室活動への理解を広げていくことが課題で、より多くの方に参加してもらえるよう、開催時期、開催方法を工夫することが必要である。また、より多くの地域リソースと連携・協働していけるようなネットワークも大切である。

iii 今後の活動予定

取組4のプログラム研修、コーディネーター研修を核として、「行動・体験型」教室活動を広げていきたいと考えている。特に、新たな取り組みとして、当協会として「行動・体験型」活動に特化した教室を立ち上げ、研修参加者が継続して、モデル授業を実施できる場をつくる。さらに、活動事例をまとめた冊子も継続して作成し、時間をかけて、「地域の日本語教室」の意義を関係者が共有し、それを踏まえた教室活動が展開できる地域づくりを目指していく。